

ところで平成にな

る本体には「東京浅  
草區御蔵前 池田都  
遺族から宮田村に寄  
贈された幻燈機と種  
板があるが、幻燈機  
写真がキャプション  
にも「大正初期から  
昭和にかけて用いら  
れたもの」とあると  
あり、岸本が最初に  
求めた幻燈機より後  
代のものようだ。  
最初の幻燈機は光源  
が石油ランプで、顔  
が黒くなったと桐山  
氏も記述している。  
今回幻燈機と一緒  
に出してきたガラス  
種板を入れた桐箱に  
は「衛生狂画」や  
「當世善悪鏡」「家  
庭教育」などのタイ  
トが書かれ、それぞ  
れ10枚前後のタネ板  
が入っており、蓋裏  
には明治34年など  
と、板を購入した日  
しき年の年号が書き  
込まれている。ま  
た、映写機と思われ

る本体内には「東京浅  
草區御蔵前 池田都  
遺族から宮田村に寄  
贈された幻燈機と種  
板があるが、幻燈機  
写真がキャプション  
にも「大正初期から  
昭和にかけて用いら  
れたもの」とあると  
あり、岸本が最初に  
求めた幻燈機より後  
代のものようだ。  
最初の幻燈機は光源  
が石油ランプで、顔  
が黒くなったと桐山  
氏も記述している。  
今回幻燈機と一緒  
に出してきたガラス  
種板を入れた桐箱に  
は「衛生狂画」や  
「當世善悪鏡」「家  
庭教育」などのタイ  
トが書かれ、それぞ  
れ10枚前後のタネ板  
が入っており、蓋裏  
には明治34年など  
と、板を購入した日  
しき年の年号が書き  
込まれている。ま  
た、映写機と思われ

岸本與と幻燈機をめぐって

嶋 不 濁

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ

が購入したという2  
00円という金額  
(桐山氏著書)にも  
疑義が残る。  
MSCに寄贈され  
た1台の幻燈機とガ  
ラス板の種板をめぐ  
って調査を進めてゆ  
くと、明治末期から  
戦前の幻燈機用途  
に、文化史とともに  
集落や学校・個人宅  
の名称とともに、窓  
口や責任者の名前  
が記されている。ま  
た、映写機と思われ



ガラス種板の一部

いる。綴りの冒頭は  
明治32年10月5日の  
岸本の「漫遊教育幻  
燈会趣旨」、次が同年  
12月の宮田村青年団  
会を筆頭に名士の岸  
本が企画(事業)に  
対する賞賛・激励が  
続く。その後幻燈機  
を入手したのだろ  
うか、実際の幻燈機  
に対する謝辞は翌明  
治33年1月6日の甲  
斐國都留郡大目村の  
浅川時次郎によるも  
の。それ以前1月1  
日から5日の上映記  
録も綴られている  
が、合冊のせいかな  
ら、文字が署名者  
の自筆と思えない記  
録もあり、幻燈機入  
手の正確な日時はわ  
からない。しかし、  
明治33年1月5日ま  
では入手していた

原青年有志、28日午  
牧村、3月1日下市  
田校と続き、4月  
になると神稲村(現  
豊丘村)、福与・生田  
・部奈・中山長嶺・  
峠(現松川町)、河野  
・堀越の青年会や夜  
学会、喬木村に入っ  
て富田、大和地や氏  
乗、座光寺村、上久  
堅村越久保、5月に  
なる松尾村毛質、鼎  
近辺を回っている。また  
9月に入ると大鹿村  
鹿塩、大河原、青木  
の小学校や青年会な  
ど10月から暮れにか  
けて、上伊那南方か  
らさらに下伊那郡桐  
林・駄科・川路、立  
石、三穂から下條村  
と回っている。  
翌35年になっても  
南信州に留まり、1  
月には富草村・旦開村  
(現阿南町)・神原  
坂部・向方・福島・  
鷺巣・松島・満島  
(現天龍村)の村  
へ、5月中旬までに  
南和太町・上村上  
町(現飯田市南信  
濃)と漫遊してい  
る。さらに翌35年11

月になると、泰阜  
村、千代村、龍江  
村、上久堅村、下久  
堅村を歴訪。36年正  
月になっても箱川村  
(現飯田市山本)・  
久米村、伍和村・親  
田村・千智村小野川  
・(現阿智村)、山田  
河内・新井(現下條  
村)を経て、再び鼎  
牧、吉田村山吹、市  
村(現飯田市鼎)、牛  
牧、安養寺、神稲、  
河野、生田村中山、  
大島村上新井、上片  
桐、大島村名子・七  
久保(現松川町)を  
4月にかけて歩いて  
いる。『明治参拾七八  
と驚嘆せざるを得な  
い。』  
さてMSCに寄贈  
された幻燈機と、宮  
田村教育委員会に平  
成2年に遺族から寄  
贈されていた幻燈機  
の關係であるが、M  
SCのものは前回書  
いた通り「東京浅草  
區御蔵前 池田都  
草の「幻燈会」と氏  
乗の幻燈機が無縁で  
なかったであろうこ  
とが推測できるので

京浅草並木町 鶴淵  
製」と銘があり、M  
SCのものにはな  
い、電気コードと電  
球があり、光源が電  
気であることがわか  
り、大正初期以降の製  
造物と思われる。つ  
まり宮田村教育委員  
会に寄贈された幻燈  
機は岸本が最初に買  
い求めたものではな  
く、大正3年に長野  
県知事から岸本の活  
動に対して付与され  
た30円を元手に購入  
したのであろうと推測  
された。が、しかし、  
MSC蔵の幻燈機が  
岸本が使用していた  
ものに近い初期のも  
のであること。また  
「芳名録」の足取り  
から、MSC蔵の幻  
燈機が発見された喬  
木村氏にも岸本與  
の足跡が記録されて  
いることから、岸本  
の幻燈機が無縁でな  
かったであろうこと  
が推測できるので